

学校防災アドバイザー 派遣事業

実践校・実践地域 成果報告

【市町村】

太子町（地域で実践）

千早赤阪村（地域で実践）

岸和田市（岸和田市立東葛城小学校・岸和田市立野村中学校）

泉南市（泉南市立西信達小学校）

【府立学校】

大阪府立夕陽丘高等学校

大阪府教育センター附属高等学校

大阪府立茨木支援学校

大阪府立中津支援学校

大阪府立富田林中・高等学校

【私立学校園】

幼保連携型認定こども園 西信達くねあ

幼保連携型認定こども園 この花こども園

幼保連携型認定こども園 信太保育園

太子町

防災教育実践委員会 構成員		職 名	
学校防災アドバイザー	教育委員会事務局	教育総務課長	
太子町立幼稚園 教頭	教育委員会事務局	学務指導課長	
太子町立磯長小学校 教頭	教育委員会事務局	学務指導課長補佐	
太子町立山田小学校 教頭	まちづくり推進部	安全環境課長	
太子町立中学校 教頭	まちづくり推進部	安全環境課長補佐	

1. 事業の目的

学校防災アドバイザーの意見を踏まえ、下記の通り防災教育の意識向上と危機管理能力の育成を図る。

- ・各学区の実態に応じ、避難訓練計画を改善し、避難訓練を実施する。
- ・避難訓練実施後に検証を行い、マニュアルの改訂・改善を行うなど防災の充実に努める。

2. 具体的な取り組み内容

日 時/場 所	会議名・取り組み等
平成28年9月7日(水) 場所 太子町役場・会議室	防災教育実践委員会運営会議
【取り組み内容】	
・本年度防災教育実践委員会の活動計画(会議・避難訓練計画の検討)についての打ち合わせ	
平成28年10月25日(火) 場所 太子町役場・会議室	第1回 防災教育実践委員会
【取り組み内容】	
・本年度防災教育実践委員会の活動計画(会議・避難訓練計画の検討)について	
平成28年12月21日(水) 場所 太子町立磯長小学校	会議名・取り組み等 避難所開設研修(HUG)小学校・幼稚園合同 第2回防災教育実践委員会
【取り組み内容】	
・避難所開設研修	
・取り組みの検証	
平成29年 1月17日(火) 場所 太子町立山田小学校	会議名・取り組み等 避難訓練 第3回防災教育実践委員会
【取り組み内容】	
・避難訓練	
・取り組みの検証	

日 時/場 所	会議名・取り組み等
平成29年 1月20日(金) 10:00 ~ 11:30 場所(太子町役場・会議室)	第4回防災教育実践委員会
【取り組み内容】	
・各学区の事例発表	
・取り組みの振り返り	

3. 事業成果

(幼稚園)

- ・回数を重ねるごとに、園児も教師の指示に早く耳を傾けるようになってきているとともに、放送の指示を聞く姿勢もよくなっている。また、緊急のアラーム音を素早く聞きとれるようになってきている。さらには、園児自らが互いに声掛けをする様子も見られるようになった。

(小学校)

校内の防災マニュアルについて職員会議で検討し、より実践的なものになるように再検討することができた。

- ・本年度1月に実際に緊急地震速報が出されたが、教職員および児童とともに訓練通り行動することができた。

- ・避難訓練について全職員で情報共有し、緊急時の連絡体制を見直したり、実際の児童の避難の様子について話し合うことができた。

- ・1学期に本校では初めて保護者への引き渡し訓練を実施した。日曜参観日の午後に設定し、多くの保護者に参加してもらった。地区連絡網とメール配信を利用して保護者連絡を行った。また、児童の引き渡し場所として本校で一番新しく建てた体育館とした。訓練実施後に、職員以外に保護者にもアンケートとして訓練の反省を書いてもらった。引き渡しカードの使い方、連絡網について、引き渡し場所についてなどの課題が見えた。

- ・3学期には地震の休み時間中に地震が発生した事を想定した避難訓練を実施した。事前指導を行った後で、何時訓練を行うかは伝えないで行った。その場で子ども達だけでどう動けば良いかを考えて行動すること自体も訓練の大切な要素として実施した。課題が多く見えた訓練となった。訓練後、一人ひとりの職員の避難訓練に対する意識が向上し、子ども達も自分達だけでできたので自信がつけられた。今後さらに子ども達や教職員に実践的な力を身に付けさせたい。

(中学校)

- ・今年度作成した地震・津波災害マニュアルの見直し。
- ・避難所開設の訓練を教職員研修として実施する。今年度も小学校において避難所の開設と運営についての研修を実施する。運営方法について学習することができ、職員が避難所開設について、具体的な実践的な研修を持つことができた。

- ・具体的な研修(職員研修)のひとつとして、昨年度実施した、身近なものを使って応急処置等ができるようになるという研修を繰り返し実施した。毛布を担架がわりに人を運んだり、移動させる実技的な研修を実施した。昨年度の内容を思い出しながら研修を実施した。

- ・課題設定をした避難訓練の実施計画を立案した。避難経路が災害で通行できないという課題を設定した避難訓練を計画した。

・防災に関して、学校・教育委員会・安全環境課との連携をさらに深めることができた。

【教育委員会】

- ・学校と本町安全環境課（防災部局）との関係が深まった。それぞれの役割と連携方法を相互に理解し、学校の研修時に参加するなど交流を行った。
- ・教職員の防災教育に係る意識が確実に向上し、各学校の状況に応じた取組ができた。

4. 周知・普及の方法

本町では、防災教育実践委員会に各学校園より教頭が代表で参加しており、教頭を中心に他の教職員に事業成果の普及を図った。

5. 「避難訓練」に関すること

(ア) 「避難訓練」の種類（地震）

(イ) 学校防災アドバイザーからの「避難訓練」に関する助言内容

- ・訓練であっても職員もしっかり安全行動をとり行動しなければならぬ。
- ・運動場へ避難してきたときの人数点呼を行っている様子が同いにくかった。
- ・休み時間の避難訓練であったため、子ども達がいるような活動場所で緊急アラームが鳴ったがまだまだ避難する方法に徹底指導できていない場面も見られた。
- ・町としての防災意識は高まってきている。今後も実際の災害を想定して訓練し、マニュアルを見直していくこと。
- ・訓練時にパニックになる児童も想定に入れること。
- ・正しい情報を伝えられる連絡体制を確立すること。
- ・NHKは市町村ごとの災害情報を周知するので、災害時に役立てること
- ・訓練に工夫をし、臨機応変に対応できるような訓練をする。
- ・校長室、職員室など発災時に指令の中心となる場所が機能するように地震対策をすること。
- ・町と連携した訓練もしていくこと
- ・高学年から、防災意識を高め、タンカや三角巾の使い方などの訓練も入れていくとよい。
- ・学校として課題をつかんできているので、それに対応する取組をしていくことが必要となる。
- ・地域が旧村があり、細い路が多い。登下校中に地震が起こった場合の避難方法や、家庭での緊急時の避難場所を決めてもらうなど啓発するとよい。
- ・休み時間と言うことで廊下に行った児童が教室に戻ろうとしていた。小学生にその場に応じた危機対応方法を徹底するのに、繰り返し訓練が大切である。
- ・教師が地震速報の放送がなっている間にすでに行動に移っていた。地震発生時には先生も命を守る行動をとってから次の行動にしてもよい。
- ・教師が誘導する際、安全確認の行動が見られない方もいた。訓練を振り返る時に、「命を守る行動ができたか？」という視点で見直すことよい。
- ・校内の防災無線での連絡方法などを職員全体に周知する。
- ・実際に地震等の災害が発生した避難訓練の実施について、例えば、日時を告知しないで避難訓練を実施したり、避難経路を訓練当日に変更しなければならぬような状況を作り出して避難訓練を実施す

るような工夫をそれぞれ各学校の状況にあわせて実施計画を立案する。

- ・具体的な課題を明らかにした上で、避難訓練等を実施する。それぞれの教職員がその場で、とっさの判断ができ、それを行動に移せるような避難訓練を計画的に実施する。
- ・学校において、避難所開設の方法や開設にあたっての注意事項や職員それぞれの役割分担等についての助言と職員研修にて、避難所開設を実際に体験する。今後は、職員研修で体験した内容を生徒に伝達していく。応急処置についての実技研修を定期的に計画・実践する。
- ・町の災害対策本部や安全環境課との連携方法や教職員の役割についての助言をいただく。

6. 「危機管理マニュアル」に関すること

学校防災アドバイザーからの「危機管理マニュアル」に関する助言内容

- ・園外の機関との連携を図る。
- ・教師間での役割分担の確認する。
- ・災害対策本部（町役場）との情報共有の方法の確立。
- ・ハザードマップなどを活用し、危険な場所を情報共有する必要がある。
- ・登校前に発災したときのマニュアルづくりが必要である。
- ・大きな地震や災害等が起きたとき、保護者に子どもを引き渡すとマニュアルにあっても、状況に応じて学校に残すこともあり得ることを考慮する。
- ・できる限り正確な情報を得ることが大切になる。
- ・学校が避難所になった場合の対応方法を決めておく。例えば、体育館の通路を確保する、ゴミの処理の仕方を決めておく、など。
- ・職員にも避難所となった場合には、避難所開設に向けて協力する義務があること知らせる。
- ・トイレの対応や連絡方法の確認がいる。
- ・あらゆる場面を想定した災害発生時の危機管理マニュアルを作成し、作成したマニュアルに対して助言をいただく。
- ・作成した避難所開設、避難所運営に関するマニュアルの再検討を行い、助言していただく。
- ・各校園のそれぞれの課題に応じた危機管理マニュアルの作成や検討を行うようにしていく。危機管理に関する個々の問題点について、具体的な解決方法をじっくりと検討していくこと。
- ・教職員を対象にした訓練や実技体験を数多く実施し、教職員が危機管理に関しての意識を高めていけるようにしていく。そのため訓練の工夫についての助言をしていただく。

7. その他の取組みに関すること

取組み内容

(幼稚園)

- ・普段から園舎内・廊下・保健室などの環境整備にあたる。
- ・避難所開設にあたり、順序立てた準備の仕方を確認する。
- (小学校)
- ・児童が避難経路や発災時の動きなどを話し合える機会を持ち、「自分の命は自分で守る」という考えを実践できるような授業や取組を組みを企画していきたい。

- ・避難訓練が形骸化することなく実施できるように、あらゆる場面を想定し、臨機応変に対応できるような訓練を検討していきたい。
 - ・学校だけでなく地域全体で「防災の日」を設定し、共に訓練できるよう、町や町内各校園と協力し、取り組んでいきたい。
 - ・教職員一人ひとりが防災の意識を高めるため、HUGなどの研修会を持ち、より実践的な訓練ができるように検討していく。
 - ・学校の中で、危険箇所を点検したので、次年度、具体的な安全対策を講じていく。
 - ・地域や保護者と連携をとった避難訓練を計画していく。
 - ・学校が避難所として開設される場合、学校施設の安全確認を迅速に行う。
 - ・災害時における避難所運営について、できる限りルール等を決めておく。
 - 受付、受付用紙、机等の準備、体育館への誘導等
- (中学校)
- ・負傷者が出た場合の職員の動き方や役割分担について、明確にしておく。学校教育計画において、年度当初に確認を行う。
 - ・避難所開設の訓練を継続的に実施し、避難所開設・運営についての職員の意識を高める。
 - ・応急処置に関する訓練等を計画的・継続的に実施し、教職員だけでなく、生徒にも避難訓練等を通じて体験できるように計画していく。
 - ・職員室や校長室の安全点検を行い、棚やロッカーの整備等を実施する。教職員も職員室の安全に関する意識が高まるように取り組みを工夫していく。
 - ・いつも同じような訓練や職員研修にならないように工夫した避難訓練実施計画や職員研修を計画していくようにする。
 - ・学校だけでなく、行政機関と連携した避難訓練を計画し、緊急時の連絡の取りかたなどについて計画的に訓練をしていく。
 - ・教育委員会や、安全環境課など防災担当の方々と会議や研修を実施することで、より広い視野に立って、マニュアル等についても再検討を行うことができた。
- 【教育委員会】
- ・学校や委員会だけでなく、安全環境課などの防災担当と会議や打ち合わせを行うことで、より広い視野に立って、マニュアル、避難訓練などについて再検討を行うことができた。
 - ・教職員研修を実施することで、教職員の防災教育の意識が高まった。
 - ・今年で避難所開設研修を町内の全小学校園で実施することができた。

8. 本事業を踏まえた来年度の課題

(幼稚園)

- ・園児の避難誘導はスムーズに行えていたが、園児を避難させた後の職員による、園舎内に取り残された園児の確認や、園児を保育室に戻す時の園舎内安全確認に見落としがあったため、職員の役割分担を細かく決めておく必要があると思われる。
- ・避難時に頭を守るために身近にあるものをもって避難させる。

(小学校)

- ・緊急地震速報を知る手段として、校内の各教室では学級担任が私物の携帯電話やスマートフォンを持っていく必要があるが、町のジェイアラートと校内の放送設備が運動することができればより素早く対応できると思われる。
 - ・防災時、町の災害対策本部とどのように情報のやりとりをするかなど、次年度の検討事項として残った。
 - ・防災教育実践委員会での検討内容について学校の避難訓練に生かしていく方法について検討が必要である。
 - ・より実践的な訓練を行うと、非常時にパニック状態となる児童となる児童の対応について検討が必要となることが想定され、どのようなレベルの内容をどのように実施していくのかが、課題である。
 - ・本年度本校の教員を対象とした「HUG（避難所運営ゲーム）」を行うことができ、より現実的に体験することで、次年度からの防災意識のさらなる向上を目指している。
 - ・引き渡し訓練の改善を図り、保護者への啓発も進める必要がある。
 - ・地震が起きたとき、一人ひとりの児童がどのように行動すればよいかを考え行動できるような練習として、障害物等を置き避難経路が急に変化するなどの訓練も必要となる。
 - ・学校が避難所になった場合の訓練を本年度は実施していない。具体的なマニュアルがないので、早急に作成する。
- (中学校)
- ・課題設定をした（日時を知らせない、通行できない場所を設定する等）避難訓練や下校訓練を実施する。避難経路を変更しなくてはいけないような訓練を実施する。（職員にも知らせないで実施する）
 - ・危機管理マニュアル等の見直しを実施し、保護者や行政機関と連携した避難訓練を検討する。
 - ・昨年度実施した職員対象の実技研修を生徒にも体験させ、生徒により小学校にも発信していく。
- 【教育委員会】
- ・町と学校園が連携した訓練を開催する必要がある。
 - ・学校園と保護者との連携方法を研究する避難訓練を実施することが必要である。
 - ・学校園において防災時に本部となる校園草室・職員室の安全環境整備が必要である。
 - ・避難所開設研修を町教委や他校の教頭が実施しスキルを身につけていく必要がある。

千早赤阪村

防災教育実践委員会 構成員	職名
	千早赤阪村アドバイザー
	千早赤阪村教育委員会教育課長
	千早赤阪村立中学校 教頭
	千早赤阪村立赤阪小学校 教頭

1. 事業の目的

- ・山間部における異常気象等による災害に備える訓練を通して、児童生徒の防災意識を高める。
- ・子どもたちが自ら的確に判断し行動できるための正しい知識を身につける「防災学習の充実」
- ・学校園と役場担当者との防災について協議し意識の共有をはかる。

2. 具体的な取組内容

日 時/場 所	会議名・取組み等
平成28年10月31日(月) 場所 教育委員会	防災教育実践委員会運営会議
1 【取組内容】	<ul style="list-style-type: none"> ・各校の防災教育の取組み計画について ・防災教育実践委員会運営会議について ・千早赤阪村防災対策について[防災・道路] ・村役場と学校の連携体制について ・学校からの質問・要望 ・今後の取組内容についての打ち合わせ、諸連絡など
日 時/場 所	会議名・取組み等
平成29年1月14日(土) 場所 千早赤阪小学校	防災学習・地震避難訓練・児童引渡訓練・地域連携公開研修「避難所運営ゲーム(HUG)」
2 【取組内容】	<ul style="list-style-type: none"> ・最新の地震情報と地震災害に備える(大阪管区気象台との連携) ・各学年で防災学習(参観授業 大阪管区気象台との連携) ・防災避難訓練・児童引渡訓練(保護者・地域連携 近隣保育園と合同) ・避難所運営ゲーム(HUG)[職員・保護者・地域の約20名]
日 時/場 所	会議名・取組み等
平成29年1月16日(月) 場所(赤阪小学校 会議室)	防災教育職員全体研修 (敷地内で隣接する公立幼稚園教職員と合同)
3 【取組内容】	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校が被災による緊急時の避難所になった場合の学校職員の役割 ・「避難所運営ゲームHUG」をグループ毎に実施し、想定される学校敷地図や体育館内図を活用しながら、具体的な条件の多数の避難者の受け入れや、避難所としての機能を果たすための様々な条件等ゲームを通して考える。そして、学校教職員としての役割の意識の高揚を図った。

4	日 時/場 所	会議名・取組み等
	平成29年1月17日(月) 16:00～17:00 場所(千早赤阪村立中学校)	簡易スリッパ製作事前実習
	【取組内容】	<ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒を異年齢で8つに分けた班の代表合計8名が、1月23日(月)の実習に向けて、防災アドバイザーから、災害時に役立つ簡易スリッパの製作実習について事前実習を受ける。

3. 事業成果

- ・赤阪小学校とこせ幼稚園合同で、避難所運営ゲームを通して、防災教育研修を実施し両校園の教職員の研修が深まった。
- ・中学校では、昨年に引き続き、災害時に自分たち自身の積極的な防災意識を育むため、体験型訓練の実施を計画できた。今年度は簡易スリッパ作成の事前講習を教職員や生徒会等の一部生徒を含めて事前研修まで実施できた。残念ながら、本番はインフルエンザにより中止となったが、時間的に可能であれば講習を受講したものが中心となって、実施していく。
- ・千早赤阪小学校では、防災及び安全教育に関係した取り組みを学校全体で行っている。今年度は、地域自治会の方々と一緒に避難所開設訓練ゲームを行い、様々な意見交換が実施できた。
- ・総じて、昨年度以上に村立学校園全体で防災意識が高まったこと等が成果として挙げられる。

4. 周知・普及の方法

- ・村立学校園全体で取り組むことができた。
- ・防災士の方も毎年継続してきてもらうことができたので、事業がよりスムーズにすすめられた。
- ・今後も、防災教育の推進に向けて、教育委員会及び村役場と学校との連携を深め、防災士の方にもかかわって行っていただき、村内全体に防災教育の取り組みを普及していきたい。

5. 「避難訓練」に関すること

- (ア)「避難訓練」の種類 (地震・火災)
- (イ) 学校防災アドバイザーからの「避難訓練」に関する助言内容
- ・機器などを使えない前提ではなく、使えない仮定で、実際の訓練を進めること。
 - ・準備万端の訓練ではなく、保護者や地域の方と協力しながら訓練を進める部分も大事にすること。
 - ・地域の方との連携を進化させ、防災無線の活用など、可能性を探ること。
 - ・大地震後の動きについて、生徒の安全確認の徹底や施設の安全確認をできる限り行い、地震後に利用できる場所を判断し、臨機応変に対応することが必要となる。
 - ・本校の立地場所は、大地震の際、校舎やグラウンドなどが崩れてしまいう可能性が高く、学校周辺でも完全に避難できる場所を検討しておくことが必要である。
 - ・村役場と学校の連携を今以上に考えておく必要がある。

6. 「危機管理マニュアル」に関すること

学校防災アドバイザーからの「危機管理マニュアル」に関する助言内容

- 被災後、ライフラインが断たれ、学校（校区）が孤立する可能性が高い地理的条件にあり、地域と協力しての避難所運営を想定する必要がある。役場の支援が届かない覚悟で臨むべきである。避難後の状態が、長期に渡ることも想定しておく必要がある。

7. その他の取組みに関すること

取組み内容

【HUG避難所運営ゲーム】

自治会と学校とで、仮検討 給水車の進入路 簡易トイレの設置 物資置き場 駐車場 等スペース提供の優先順位

- 今回は、避難訓練の後、災害時に役立つように、新聞紙を用いた簡易スリッパの製作実習を防災アドバイザーに実施していただく予定であったが、インフルエンザの影響で延期となった。ただし、事前に班分けした各班の代表者合計8名が事前に簡易スリッパの製作について講習を受け、その代表者が当日の実習で各班の中心となって、防災アドバイザーとともに職員に簡易スリッパの作り方や利用方法を説明できるように事前講習を行った。
- 地域の特性から、大雨による災害も十分に考えられる。PTAと協力して、通学路の危険箇所等を点検し、生徒には年に数回、集会等で注意喚起を行っている。

8. 本事業を踏まえた来年度の課題

- 村役場の防災担当と連携をしながら、防災教育実践委員会を今後も継続開催していく。
- 「千早赤阪村地域防災計画」(H28.11)が完成したので、村立学校園に周知していく。
- 研修として実施した「避難所運営ゲームHUG」は大変有意義であった。ただ、一般的な学校施設の図に基づいたゲームであり、出来れば、今後、実際の学校施設図や体育館内図をもとにHUGを実施できればより実態に即した訓練となる。
- 「避難訓練のあり方」については、避難経路がふさがれた場合や休み時間に地震や火災が起こった場合など、具体的な実践につながるような「避難訓練」を今後検討していく。

岸和田市立東葛城小学校

防災教育実践委員会 構成員	職名
	学校防災アドバイザー
	校長
	教頭
市教育委員会防災担当指導主事	

1. 事業の目的

- ・本校は土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域（急傾斜・土石流）指定避難場所でありながら、急傾斜地に位置し、土石流を含む土砂災害の危険性が非常に高い。そのため地震が起こった時に、児童や教職員が身を守る行動ができ、その後倒壊や土砂災害発生などの状況に応じ、安全かつ迅速に避難できるように、必要な知識と方法を学び非常時の行動を身につける。
- ・保護者や地域との連携のあり方を検討する。

2. 具体的な取組み内容

日	時/場 所	会議名・取組み等
平成28年 9月27日（火）15：45～17：00	第1回 防災教育実践委員会 場所 校長室	
【取組み内容】		
・校内安全指導年間計画についての考察・検討。 ・避難訓練の課題について考察・検討。		
日	時/場 所	会議名・取組み等
平成28年 11月 6日（日）11：30～14：30	運動場～農協横駐車場、校長室	保護者への受け渡し訓練 第2回 防災教育実践委員会
【取組み内容】		
・運動場から第2次避難場所（農協横駐車場）への移動する避難訓練と保護者への受け渡し訓練。 ・訓練の考察・検討と、展望。		
日	時/場 所	会議名・取組み等
平成29年 1月26日（木）15：00～17：00	防災教育講演会 場所 多目的室・校長室	第3回 防災教育実践委員会
【取組み内容】		
・職員・保護者・地域の方々への、アドバイザーによる防災教育講演会。 （東日本大震災に関するDVD視聴と講演） ・今年度の防災教育活動の考察・検討と次年度に向けての課題と展望。		

3. 事業成果

- ・職員、保護者、児童に防災意識を啓発。
- ・本校防災教育の見直し、考察・検討、展望。
- ・地域へ防災意識の啓発活動と発信。

4. 周知・普及の方法

- ・防災アドバイザーによる防災教育講演会とDVD視聴。
- ・児童を通じて保護者への配布物。
- ・防災教育講演会については、市民協の会議及び各町内回覧を実施。

5. 「避難訓練」に関すること

- (ア) 「避難訓練」の種類（地震・土砂災害）
- (イ) 学校防災アドバイザーからの「避難訓練」に関する助言内容
- ・全員が真剣に取り組む。 ・教職員の意識を高める。 ・保護者への啓発が大切。
 - ・保護者へ引き渡すときには確認を確実に行うこと。
 - ・保護者へは緊急時引き渡しを誰にするか話し合ってもらふことも必要。
 - ・保護者が迎えに來れない子どもへの配慮が必要。
 - ・引き渡し訓練の日の設定をバージョンアップさせる。

6. 「危機管理マニュアル」に関すること

- 学校防災アドバイザーからの「危機管理マニュアル」に関する助言内容
- ・備えておくことが、大切。
 - ・職員、保護者の周知。
 - ・地震時の学校基本方針の確立をすること。

7. その他の取組みに関すること

- 取組み内容
- ・防災授業について、様々な提案をいただきました。
 - ・保護者の啓発も兼ねて、参観授業の提案もいただきました。
 - ・地域の防災意識啓発のために、土砂災害DVDを紹介いただきました。

8. 本事業を踏まえた来年度の課題

- ・地震時における学校基本方針の確立と周知。
- ・防災授業。
- ・児童・保護者・地域へ防災意識の更なる啓発と、具体的な防災活動への意識付け。

岸和田市（岸和田市立野村中学校）

職 名	
校長	教頭
首席	保健主事
養護教諭	生徒指導主事
指導教諭 (防災担当)	PTA 役員
学校防災アドバイザー	

防災教育実践委員会
構成員

1. 事業の目的

- ・ 防災教育の推進
- ・ 防災管理の整備
- ・ 組織活動の円滑化

2. 具体的な取組内容

日 時/場 所	会議名・取組み等
平成28年8月26日(金) 場所 (校長室)	第1回防災教育実践委員会
【取組内容】	
・ 防災教育計画 (1～3年) についての考察・検討	
・ 危機管理マニュアルの見直し	
平成28年9月29日(木) 場所 (校長室)	第2回防災教育実践委員会
【取組内容】	
・ 12月の避難訓練を含めた今後の取組計画についての検討	
平成28年11月21日(月) 場所 (校長室)	第3回防災教育実践委員会
【取組内容】	
・ 12月の避難訓練を含めた今後の取組計画についての検討	
平成28年12月 9日(金) 場所 (多目的室)	防災授業打ち合わせ
【取組内容】	
・ 避難所生活を想定した防災授業の打ち合わせ、学校防災アドバイザーからの指導助言	

日 時/場 所	会議名・取組み等
平成28年12月22日(木) 場所 (野村中～光陽中第2グラウンド)	防災授業 避難訓練
5	【取組内容】
	・ 避難所生活を想定した防災授業
	・ 地震、津波を想定した避難訓練

3. 事業成果

- ・ 避難訓練について、昨年度同様、地震による津波を想定した訓練を実施し、第2避難所である光陽中第2グラウンドまでの避難を行った。
- ・ 避難訓練当日には、学校防災アドバイザーにも同行いただき、その時の教師及び生徒の動きや訓練に取り組み構成、訓練後の生徒の振り返りやフィードバック方法等についても助言をいただいた。

4. 周知・普及の方法

- ① PTA 広報誌の活用
- ② 地域支援本部・市民協議会との連携
- ③ 学校 HP 及び岸和田市 HP での紹介

5. 「避難訓練」に関すること

- (ア) 「避難訓練」の種類 (地震・津波)
- (イ) 学校防災アドバイザーからの「避難訓練」に関する助言内容

- ・ 訓練の必要性を生徒に自ら考えさせる。そのためには「心の防災教育」が必要。生徒の感性に訴えかける工夫。
- ・ 計画した授業も大切だが、教師が普段から世界で起きた災害を意識するなどして、折に触れて生徒に語ることも大切。

6. 本事業を踏まえた来年度の課題

- ・ 南海トラフ巨大地震に向けた防災意識を教師・生徒・保護者・地域への高揚
- ・ 避難計画の再検討、教師の共通理解と避難所を想定した役割分担等の作成
- ・ 訓練が単発のものにならぬよう、フィードバック方法など事後指導に工夫を凝らす。生徒の意識に継続的に残るような防災教育を進める

泉南市立西信達小学校

防災教育実践委員会 構成員	職名
	学校防災アドバイザー
	校長
	教頭
	教務主任
保健主事	

1. 事業の目的

<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の防災意識の向上。・避難所開設の実際を学ぶ。 ・実際の地震津波避難の方法の検討。危機管理マニュアルの見直し。引き渡しの方法の検討。 ・市役所・保護者・地域との防災に対する連携強化の方法を学び実際に活かす。
--

2. 具体的な取組み内容

1	<p>平成28年8月18日(木)</p> <p>場所 (校長室)</p> <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の西信達小学校における実践的防災教育総合支援事業 学校防災アドバイザー派遣事業の展開について 	<p>会議名・取組み等</p> <p>第1回防災教育実践委員会</p>
2	<p>平成28年9月13日(火)</p> <p>場所 (校長室)</p> <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震津波避難訓練の計画・実施案の検討 ・学校内点検・避難想定中学校視察・校外巡回 	<p>会議名・取組み等</p> <p>第2回防災教育実践委員会</p>
3	<p>平成28年10月26日(水)</p> <p>場所 校外・校長室</p> <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波を想定した避難訓練(西信達中へ) ・中学校と合同で集団下校 	<p>会議名・取組み等</p> <p>避難訓練・集団下校 第3回防災教育実践委員会</p>
4	<p>平成28年11月24日(木)</p> <p>場所 校長室</p> <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練計画の見直し(次年度に向けて) 	<p>会議名・取組み等</p> <p>第4回防災教育実践委員会</p>

5	<p>平成29年1月10日(火)</p> <p>場所 コンピュータ一室</p> <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修「災害発生時の避難の仕方・避難所開設の実際」 	<p>会議名・取組み等</p> <p>第5回防災教育実践委員会</p>
---	--	-------------------------------------

3. 事業成果

<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の防災意識の向上が図られた。 ・避難所開設の実際を学ぶことができた。 ・実際の地震津波避難の方法の検討や危機管理マニュアルの見直しができた。 ・初めての引き渡し訓練ができた。 ・市役所・保護者・中学校・こども園との防災に対する連携ができた。
--

4. 周知・普及の方法

<ul style="list-style-type: none"> ・校長会・教頭会での事業の取り組みの発表伝達。 ・学校だよりに掲載し保護者に普及した。
--

5. 「避難訓練」に関すること

(ア) 「避難訓練」の種類 (地震・津波)

(イ) 学校防災アドバイザーからの「避難訓練」に関する助言内容

- ・情報収集が大事である。地震で電車が停まる。踏切で停まると横断できない。
- ・どのルートを使うか、複数のルートを考えておく必要がある。先遣隊からの連絡を受ける。
- ・適宜 メールで気づいたことを防災士より送信する。
- ・人員の確認のための名簿の持ち出しについて 児童名簿・緊急用を作成してはどうか。
- ・避難経路で、信号の所の担当は 実際の時は 車を停める等必要がある。
- ・中心者に情報連絡が伝わるシステムを作ること。
- ・登下校時の対応も検討すること。
- ・反復練習が必要、訓練の必要性は、体で覚える。
- ・6年間ですぐに行動ができるように体で覚える。

◎校内点検

項目	状況・改善	今後の対応
トランシーバーはあるか？	小型がある。 1フット以上のトランシーバーを確保すること。 ・携帯電話は使えないと考える。	トランシーバー購入 検討
校長室の校長椅子の後ろの表紙棚が危ない。	移動すること	別のところに移動
校長先生の写真額がガラスで危ない。	アクリルに替えるべき。	検討
備蓄品に水はあるか？	ない。⇒屋上近くに水を確保。一人当たり500ML×人数分。本日は、2Lは、ほしい。7年もつ水もある。	危機管理課と相談
防火扉の前に本棚が置かれてる。	防火扉が閉まらない	本棚移動
職員室の二段ロッカーは、倒れる。滑り落ちる。	棚の上に物を置かない。	早急に転倒防止金具を取り付ける
体育館のピアノの固定	転倒防止金具をつける。 地震の時ピアノが暴走でケガがあった。固定してほしい。	検討
防犯モニターの固定	職員室の防犯モニター落ちてくる。	固定検討
ロッカー上の荷物	職員室ロッカー上に荷物を置かない	早急に撤去
外のAEDの箱に鍵がかかっている。	いざというときどうするか。 職員室前ロッカーにある。	職員に周知する

6. 「危機管理マニュアル」に関すること

学校防災アドバイザーからの「危機管理マニュアル」に関する助言内容

- ・学校安全・災害安全・交通安全の3つの視点での計画を立てること
- ・実際に想定して計画を立てること
- ・複数の避難場所と避難ルートを持つておくこと。
- ・引き渡し訓練を検討すること。
- ・保護者への連絡体制を検討すること。
- ・登下校時の児童の対応や教職員の対応を検討すること。
- ・反復練習が必要である。年間計画の中に避難訓練を今までのようにきちんと位置付けること。
- ・日頃から危険箇所はないか意識を持つこと。
- ・地域との連携や泉南市総合防災訓練の必要性がある。

7. その他の取組みに関すること

取組み内容
・本校は平成28年2月よりSPS（セーフティープロモーションスクール）の認証目指して安全教育に取り組んでいる。
・中学校との連携や隣接する認定こども園との連携もスタートした。
・泉南市危機管理課とも連携をしている。

8. 本事業を踏まえた来年度の課題

- ・市役所・保護者・子ども園・地域との防災に対する連携強化の方法を学び実際に活かす。
- ・教職員の危機意識の継続。
- ・1年だけの取り組みでは不十分なので 来年度も本事業を継続したい。

大阪府立夕陽丘高等学校

職名	
校長	教諭・総務担当
教頭	教諭・自治会担当
首席	P T A 役員
養護教諭・保健主事	防災アドバイザー
教諭・生徒指導主事	

**防災教育実践委員会
構成員**

1. 事業の目的

- ・学校においては、普段の授業日以外に校外から多くの来校者を迎え入れる行事が行われる。その際に災害が発生した場合の避難誘導及び防犯等の対応を確立する。
- ・学校関係者以外の人がいる場合の巡回経路・避難誘導
- ・災害発生時の避難所運営マニュアルの作成

2. 具体的な取組内容

日 時/場 所	会議名・取組み等
平成28年8月26日(金) 14:00~16:00 場所 校長室	第1回防災教育実践委員会
【取組内容】	
・学校関係者以外の人がいる場合を想定した避難訓練の計画、実施案の検討	
・避難誘導マニュアル作成のアドバイス	
・防災教育計画(1~3年)についての考察・検討	
日 時/場 所	会議名・取組み等
平成28年10月6日(木) 16:00~17:00 場所 保健室	第2回防災教育実践委員会
【取組内容】	
・仙台区の避難所運営マニュアルを例に、災害発生時の避難所運営にかける基本的な流れから運営方法、避難所運営マニュアルの作成へ向けての研修	
日 時/場 所	会議名・取組み等
平成28年12月11日(日) 9:00~12:00 場所 体育館・グラウンド	避難所開設・運営訓練
【取組内容】	
・地域住民が避難してきた場合を想定した区役所との合同避難所運営訓練	
・生徒によるボランティア活動訓練	

日 時/場 所	会議名・取組み等
平成29年1月6日(金) 15:00~16:00 場所 学芸会館	避難所運営研修 第3回防災教育実践委員会
【取組内容】	
・防災アドバイザーによる避難所運営に係る研修	

3. 事業成果

- ①文化祭時における防災・防犯について、避難経路、避難場所の確認(通常授業時と同じ)。エリア責任者の動き、必要物品の確認。想定される犯罪および警備体制・巡回経路についてアドバイスをいただいた。
- ②南海トラフ地震を想定した災害時の避難所開設及び運営方法について、仙台区のマニュアルを基本に夕陽丘高校における避難所運営マニュアルの作成に向けた指導助言をいただき、作成に取り組む。
- ③天王寺区と共同して、区民の避難所開設運営訓練を行う。事前に備蓄場所を確保し、備蓄品の搬入を行う。当日は、施設開錠・安全点検・本部設置・必要資材の準備・通信訓練・受付、避難スペースの設営から受け入れ避難誘導、救命救命訓練、ボランティア要請伝達訓練を行い、最後に配給訓練として避難された方々に炊き出し等を配布して終了した。防災アドバイザーは参加していただけたが、事前に避難所運営について指導していただいていたこともあり、この訓練により具体的に運営方法がわかった。
- ④天王寺区との合同避難所開設運営訓練を受けて、防災アドバイザーによる「災害発生時」の心構えを聞くことができた。教職員として、人員配置が不足な時間帯(休業日での活動時、始業前・放課後)についての内容を聞くことができた。災害発生時は在籍生徒への対応だけでなく、学校が近隣住民の避難場所になることについての話は他では聞くことができない内容で、大変参考になった。また、校内以外での在宅での災害発生に備えた準備内容等は一市民として参考になった。

4. 周知・普及の方法

- ・普段から不審者を見かけたときの声掛けや連絡を職員会議、学年会、分掌会議を利用して意識づける。
- ・また、校舎内の整理を心掛け、避難経路の確認や改善箇所についての連絡を徹底する。
- ・教職員研修を実施し、災害時における学校施設の運用、避難所運営に対する知識及び心構えを学んだ。
- ・事後アンケートの結果では殆どの受講者が講演内容について「よかった」「役に立つ」という回答であった。
- ・今年度より防災教育実践委員会にP T A 役員も参加してもらい、周知を図った。

5. 「避難訓練」に関すること

- (ア) 学校防災アドバイザーに助言を受けて実施した「避難訓練」の種類 (地震)
 - (イ) 学校防災アドバイザーからの「避難訓練」に関する助言内容
- ・目的は消防法の遵守ではなく校内滞在者の生命と安全の維持に努める為、訓練を行い課題を見つけて改善し、防災対応力の向上を目指すこと。
 - ・活動場所、状況に応じた責任者が各場所から弱者に配慮しながら避難誘導を行う。

- 教頭及び事務職員は、台風・地震・津波・交通機関の運行状況の確認を行う。
- 安全衛生面から「OS1」等を用意。救急搬送が必要な場合は早めの対応を心掛ける。
- 被災者集合場所の想定（使用可能な部屋：場合により使用可・不可の場所を対象者に応じて確認）
- 110番、119番通報マニュアルの確認

6. 「危機管理マニュアル」に関すること

学校防災アドバイザーからの「危機管理マニュアル」に関する助言内容

- 学校行事時に想定される犯罪（盗撮、盗難、窃聴等）
- 学校行事日の対応としての警備体制 受付（腕章、防犯ブザー）巡回（腕章、電子ホイッスル）
- 巡回経路に放火対策としてゴミ捨て場も含める。
- 有事には、サスマタ（事務室常備）

7. その他の取組みに関すること

取組み内容
天王寺区との合同避難所開設運営訓練（別紙、参考資料）

8. 本事業を踏まえた来年度の課題

- 従来から実施の避難訓練（火災、地震）を修正し、地震発生時の対応を具体化する。
- 校舎内の整理整頓を継続できるようなチェック体制を整える。
- 本校で作成した避難所運営マニュアルを天王寺区とすり合わせ、より実用できるものにする。

大阪府教育センター附属高等学校

防災教育実践委員会 構成員	職名
	校長
	教頭
	首席（防犯・防災担当）

1. 事業の目的

<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体となって判断できる避難を想定した訓練の実施 新しい時代における防災・防犯意識のありかた

2. 具体的な取組み内容

	日時/場所	会議名・取組み等
	平成 28 年 10 月 26 日（水）16：30～17：00 場所（校長室）	事業内容の確認
1	【取組み内容】 ・校内避難訓練に向けて伝達（防災担当教員）	
	日時/場所	会議名・取組み等
	平成 28 年 11 月 11 日（金）15：40～16：30 場所（コミュニケーション教室）	防災担当教員向け研修及びアドバイス
2	【取組み内容】 ・災害時の教員の役割（生徒対応、保護者対応）についての伝達 ・次週防災訓練に向けての講習	
	日時/場所	会議名・取組み等
	平成 28 年 11 月 14 日（月）14：35～15：05 場所（雨天のため教室）	避難訓練（火災対応）
3	【取組み内容】 ・震災時の「自助」・「共助」の確認 ・避難時の自主的な判断に必要な知識 ・クイズ形式を交えての放送による講習	
	日時/場所	会議名・取組み等
	平成 29 年 1 月 12 日（木）14：15～15：05 場所（体育館）	防犯講話（1、2 年対象）
4	【取組み内容】 ・スマホの特性と社会への影響について理解し、「便利」だけで判断せずに防犯の意識を持った活用が求められている現状を、実例から学ぶ。	

3. 事業成果

<ul style="list-style-type: none"> 何が起きているかを伝えるだけで、自分で判断して避難行動がとれる生徒の育成について、生徒自らが「自分で考えなければならぬ」という意識を持つことができた。 日常的に使用しているスマホについて、防犯意識をもつことの重要性をつたえられた。
--

4. 周知・普及の方法

レクチャー（連絡）と実地訓練

5. 「避難訓練」に関すること

<p>(ア) 「避難訓練」の種類（火災）</p> <p>(イ) 学校防災アドバイザーからの「避難訓練」に関する助言内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に判断して行動するほうが、避難に必要なトータル時間は短くなっている。 訓練のための訓練ではなく、実際に起きた時にどうするかを訓練しなければならぬ。 教員は生徒の訓練を見守るだけでなく、生徒のいないところで教員が訓練をしなければならぬ。

6. 「危機管理マニュアル」に関すること

<p>学校防災アドバイザーからの「危機管理マニュアル」に関する助言内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度の抜本的見直しでもよくなった。
--

7. その他の取組みに関すること

取組み内容
<ul style="list-style-type: none"> 避難は災害の状況に応じて、自ら判断し行動する必要がある。中学校までは指示通りの避難をあたりまえと思ってきた生徒に考える機会を提供し、自らの判断で自分の身を守る、実際に即した避難訓練の実施をめざした。 また、本校では、防災の定義を広げ、天災・人災を問わず、自分の身を守る方法の指導を行っている。そのような状況のなか、スマホに代表される通信機器やデジタル危機の活用時に迫る危険を察知し、防衛することができ知識を身にさせようとした。

8. 本事業を踏まえた来年度の課題

<p>主体的避難は、今年度ははじめたばかりの避難訓練のため、細部において検討の余地が残っている。今後は生徒の行動と並行して教員がどのような役割を担うべきか、ブラッシュアップを進めていきたい。</p>

大阪府立茨木支援学校

防災教育実践委員会 構成員	職名	
	校長	教諭 (防災担当)
	准校長	教諭 (保健主事)
	教頭	教諭 (通字部)
	事務長	学校防災アドバイザー
	首席 (防災) (PTA)	防災士

1. 事業の目的

<ul style="list-style-type: none"> ・防災マニュアルへの指導助言 ・実践的な防災訓練の実施計画に向けた指導助言
--

2. 具体的な取組み内容

	日 時/場 所	会議名・取組み等
	平成28年9月5日 (月) 10:30 ~ 12:00	地震避難訓練 場所 校内
1	【取組み内容】 ・校内視察 ・緊急連絡メールを活用した地震避難訓練の実施。 ・防災年間計画についての考察	
	日 時/場 所	会議名・取組み等
	平成28年10月3日 (月) 15:30~17:00	10月 防災対策委員会 場所 校長室
2	【取組み内容】 ・地震避難訓練後の課題の検討 ・防災マニュアルの見直し (通学途上・通学バス)	
	日 時/場 所	会議名・取組み等
	平成28年11月1日 (火) 15:30 ~ 17:00	11月 防災対策委員会 場所 校長室 避難訓練計画の見直し
3	【取組み内容】 ・次年度 防災教育教育年間計画の検討 ・大災害時の生徒、保護者対応について	・茨木市 シェイクアウト訓練の確認
	日 時/場 所	会議名・取組み等
	平成28年12月1日 (木) 15:30 ~ 17:00	12月 防災対策委員会 場所 (校長室)
4	【取組み内容】 ・1月 防災研修について ・PTA 防災委員会より報告	・備蓄品の補充について

	日 時/場 所	会議名・取組み等
	平成29年1月11日 (水) 13:00 ~ 15:00	校内防災研修会 場所 会議室
5	【取組み内容】 ・支援学校のBCP/BCMとは ・茨木支援が避難所となった場合に必要なこと (ワークショップ) ・ハーベストを活かしBCをマネージメントする	・東日本震災のアンケート調査の共有

3. 事業成果

<p><防災マニュアルへの指導助言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学バス運行中の災害発生時対応について、運行ルート図を作成し災害時の一時的な待機場所の想定を行った。 ・PTAも交えた防災意識向上のための研修 (BCP 策定研修) を実施した。 ・BCP 策定に向けた課題点を、教職員間で共有することができた。 <p><実践的な防災訓練の実施計画に向けた指導助言></p> <ul style="list-style-type: none"> ・シェイクアウト訓練を計画実施した。
--

4. 周知・普及の方法

<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや安全安心だより等により、情報発信を行う。
--

5. 「避難訓練」に関すること

(ア) 「避難訓練」の種類 (地震)
(イ) 学校防災アドバイザーからの「避難訓練」に関する助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・訓練を行うにあたって、我が事と捉えて実践する意識が必要である。できなかったことや課題を見つめるのが訓練である。 ・単発的な避難訓練を行うのではなく、普段の教育活動や教科の中に落とし込んでいく方法もある。 ・柵やロッカーが固定されているかを、あらかじめ確認する。 ・集合場所に集まらない避難訓練の方法も検討して欲しい。

6. 「危機管理マニュアル」に関すること

学校防災アドバイザーからの「危機管理マニュアル」に関する助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け大災害時の対応について、地震の場合と台風・特別警報等での対応は、表を分けたほうが良い。 ・登校中での対応については、①②…のようにとるべき行動の優先順位を明確にした方がよい。 ・通学バス運行中の対応については、大判の運行ルート図を作成し、避難待機できる地点などをポイントニングしておく。

7. その他の取組みに関すること

取組み内容
<ul style="list-style-type: none">▪ PTAと連携した「SOS ファイル」の活用について検討。▪ BOPの策定に当たって、各フェーズを6段階に分けていたが、もう少し細かく分けることも検討。▪ ハーベストを活かしたBOマナー・ジメメントについては、次年度以降も見直しの機会を持つよう検討する。

8. 本事業を踏まえた来年度の課題

<ul style="list-style-type: none">▪ BOP策定研修より課題を整理し、減災に向け備えを充実させる。▪ 本校で備蓄している備蓄品の点検、使用体験等を行い、防災意識向上のための取り組みをすすめる。▪ 教育活動の中に防災教育（防災的視点）を取り入れるよう検討を進める。
--

大阪府立中津支援学校

防災教育実践委員会 構成員	職 名
	校長
	養護教諭
	健康安全指導部長
	防災担当教諭
保健主事	

1. 事業の目的

- ・災害発生時（火災・地震・津波）における校内通報・放送及び避難誘導等の組織的推進
- ・防災意識の普及・向上
- ・災害時における初期動作の訓練

2. 具体的な取組内容

日 時/場 所	会議名・取組み等
平成28年10月6日（木） 10:00～11:30 場 所 中庭～3Fホール	安全学習（地震・津波・津波・津波 避難訓練） 第一回防災教育実践委員会
【取組内容】	
・10月6日予定の地震と津波を想定した避難訓練を見て頂きアドバイスを受ける	
・危機管理マニュアルの見直し	・防災士のアドバイスを受け、手直しがあれば、修正
日 時/場 所	会議名・取組み等
平成28年11月2日（水） 15:30～17:00 場 所 職能室	第二回防災教育実践委員会 学校・大阪整肢学院防災連携会議
【取組内容】	
・校内避難訓練実施後の課題の検討	
・訓練当日に受けた防災士のアドバイスを元に、防災マニュアルの詳細検討	
日 時/場 所	会議名・取組み等
平成28年11月22日（火） 15:30～17:00 場 所 職能室	第三回防災教育実践委員会 学校・大阪整肢学院防災連携会議
【取組内容】	
・大阪整肢学院との共同防災を中心とした課題の検討。	
日 時/場 所	会議名・取組み等
平成28年12月20日（火） 15:30～17:00 場 所 3階ホール	第2回学校保健委員会 第四回防災教育実践委員会 学校職員・大阪整肢学院職員合同会議
【取組内容】	
・防災士による講演（全校教員参加）。大阪整肢学院との共同防災を中心とした課題の検討（続き）。	
・課題検討結果を踏まえた危機管理マニュアルを全体で確認。	
・第2回学校保健委員会に引き続き、防災士出席のもと、学校職員・大阪整肢学院職員で危機管理マニュアルを確認。	

3. 事業成果

- ・防災教育実践委員会における防災士、大阪整肢学院防災担当者の助言や意見等をふまえ、防災・防犯について学校と大阪整肢学院との連携体制を構築、確認することができた。

4. 周知・普及の方法

- ・職員会議での大阪整肢学院との共同防災・防犯体制資料配布
- ・防災士による学校防災に関する講演資料の配布
- ・上記講演で配布された備蓄品等チェックリストの全職員への配布

5. 「避難訓練」に関すること

（ア）「避難訓練」の種類（地震・津波）

（イ）学校防災アドバイザーからの「避難訓練」に関する助言内容

- ・一回の訓練につき、ひとつずつ新しい想定を取り入れて実施するとよい。複数の新たな想定を取り入れると、出た課題が分かりにくく混乱するため。
- ・場所、曜日や時間を変えていろいろな体制で避難訓練を経験できるようにするとよい。
- ・搬出物について、何を誰がどのタイミングで搬出するか具体的に話し合う必要があるのではないかと。

6. 「危機管理マニュアル」に関すること

学校防災アドバイザーからの「危機管理マニュアル」に関する助言内容

- ・非常災害時において、学校と大阪整肢学院が共同で一体的に災害対応と児童生徒の安全確保を行うため、連携体制の構築及び確認が必要ではないかと。

7. その他の取組みに関すること

- 取組内容
- ・第4回防災教育実践委員会においては、全校教員出席のもと、防災士より学校防災に関する講演を受けた。

8. 本事業を踏まえた来年度の課題

- ・非常災害時において、学校と大阪整肢学院が共同で一体的に災害対応と児童生徒の安全確保を行うため、引き続き、具体的な任務分担と組織的な連携体制の構築及び確認を行う。
- ・これまでの課題検討結果を踏まえて、引き続き危機管理マニュアルの改訂と全体での確認に取り組む。

大阪府立富田林中・高等学校

職名	
校長	生徒指導主事
教頭	高校再編整備課主任指導主事
首席	学校防災アドバイザー

**防災教育実践委員会
構成員**

1. 事業の目的

- 富田林中学校開校に向けた中高一貫した防災計画、避難訓練計画、危機管理マニュアルを作成する。
- 防災アドバイザーから助言を得ることで、専門的な知識やノウハウを得る。
- 教職員への研修方法について改善を行う。

2. 具体的な取り組み内容

日 時/場 所	会議名・取り組み等
平成28年9月30日(金) 14:30~16:30 場所(校長室等)	第1回中高一貫防災教育実践委員会
【取り組み内容】	
1	<ul style="list-style-type: none"> 富田林中学校・高等学校(中高一貫校)について 富田林高等学校防災計画の現状について 中高一貫の防災計画、防災訓練計画、危機管理マニュアルの作成について 今後の取り組み予定について 校内視察
日 時/場 所	会議名・取り組み等
平成28年10月26日(水) 14:30~16:30 場所(校長室)	第2回中高一貫防災教育実践委員会
【取り組み内容】	
2	<ul style="list-style-type: none"> 中高一貫の防災計画、防災訓練計画、危機管理マニュアルの作成について 懸念される事項の集約 防災計画等を作成するにあたっての方向性確認 今後の取り組み予定について
日 時/場 所	会議名・取り組み等
平成28年11月24日(木) 14:20~15:50 場所(校長室等)	第3回中高一貫防災教育実践委員会
【取り組み内容】	
3	<ul style="list-style-type: none"> 富田林高等学校防災避難訓練委員による観察 学校防災アドバイザーによる生徒向け講話 上記訓練のふり返し 今後の取り組み予定について

日 時/場 所	会議名・取り組み等
平成28年12月7日(月) 15:00~16:30 場所(校長室)	第4回中高一貫防災教育実践委員会
【取り組み内容】	
4	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度富田林中学校・高等学校 防災計画(案)、危機管理マニュアル等(案)、避難訓練計画(案)について これまでの計画等からの追加・修正点課題の確認 次回(最終回)にむけて
日 時/場 所	会議名・取り組み等
平成29年1月16日(月) 13:00~14:00 場所(校長室)	第5回中高一貫防災教育実践委員会 第1回富田林中学校防災教育推進委員会
【取り組み内容】	
5	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度富田林中学校・高等学校 防災計画(案)、危機管理マニュアル等(案)、避難訓練計画(案)について最終確認 本年度の取り組みについて振り返り 次年度に向けてのスケジュール

3. 事業成果

- 富田林中学校開校に向けた中高一貫した防災計画、避難訓練計画、危機管理マニュアルを作成した。
- 防災アドバイザーから助言を得ることで、専門的な知識やノウハウを得ることができた。
- 災害発生時の連絡ルートの再確認ができた。
- 本校(体育館)は富田林市の避難所に指定されているが、避難所になった場合の避難住民への学校としての対応や富田林市との連携を充実させる必要性を認識することができた。
- 高校生は災害時においては、ボランティアとして貴重な人的資源であること、そのためには、今後さらに社会貢献意識を醸成することの必要性を認識できた。
- 不審者対応について、具体的な対応策について意見交流できた。

4. 周知・普及の方法

- 保護者: PTA運営委員会で報告
- 学校関係者: 学校協議会で報告

5. 「避難訓練」に関すること

- (ア) 学校防災アドバイザーに助言を受けて実施した「避難訓練」の種類 (地震)
- (イ) 学校防災アドバイザーからの「避難訓練」に関する助言内容
- 被災した状況では、生徒自身の判断力が最も重要となる。自分の命は自分の判断で守るという視点が大切である。
- 教職員は生徒の命を守るという視点から、教職員自身が怪我なく無事であることが大切だということを理解する必要がある。
- 生徒自身の判断力やリーダーシップ力を育てる訓練を企画する必要がある。
- 避難訓練実施方法については、段階を経て改善していく必要がある。

6. 「危機管理マニュアル」に関すること

(ア) 学校防災アドバイザーからの「危機管理マニュアル」に関する助言内容

- ・「危機管理マニュアル」を「防犯・防災計画」を運動させて作成すべきである。
- ・不振者対応を項目に入れる必要がある。
- ・地震対応の内容を充実させてほしい。
- ・必要な資材・物品がマニュアル通りに整備されているか確認しなければならない。

7. その他の取組みに関すること

取組み内容

- ・不審者の侵入に対応するため、防犯カメラおよび各教室に防犯ブザーを設置。(平成28年度末～29年度)
- ・災害時の停電に備えて、ガスボンベ式発電機を購入。(平成28年度末予定)
- ・以下の教職員研修を来年度以降に実施することとした。
防犯に関する研修
避難所開設に関する研修

8. 本事業を踏まえた来年度の課題

- ・防犯・防災においては様々な状況が想定されるので、生徒自身の判断力やリーダーシップを育てるといふ意識を持って、防犯・防災教育を進める必要がある。
- ・被災時に必要な物品を点検し、不足物を充足させる。

認定こども園 西信達くねあ

防災教育実践委員会 構成員	職 名
	学校防災アドバイザー 施設長

1. 事業の目的

<ul style="list-style-type: none"> 災害の実際を知る 職員への防災意識を高める 避難方法を確認する 備蓄用品についての検証
--

2. 具体的な取組み内容

日 時/場 所	会議名・取組み等
平成 28 年 11 月 26 日 (土) 10 : 00 ~ 10 : 30 場所 各保育室	第 1 回危機管理研修 実地訓練
1	<p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 緊急地震速報専用端末機のデモ作動 災害用トランシーバーの試用 園児、職員への周知
日 時/場 所	会議名・取組み等
平成 28 年 12 月 13 日 (火) 9 : 44 ~ 9 : 47 場所 くねあ園舎全体	第 2 回危機管理研修 災害時避難訓練
2	<p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震発生に伴う津波発生時の想定での避難訓練 Dpass による発報と共に非常放送機で連絡し避難開始。 「地震発生後停電」の設定で、その後トランシーバーを用いて連携をとりながら避難完了。別施設の園児もトランシーバーで誘導しながら迎えの職員を出し、本園へ合流。点呼と安全確認を行い訓練を終える。 訓練の様子は、防災アドバイザーが視察。 その後、防災アドバイザーから非常備蓄品の検証とアドバイザーを受け、備品の不足については購入することにする
日 時/場 所	会議名・取組み等
平成 29 年 1 月 12 日 (木) 18 : 30 ~ 20 : 00 場所 (2 階保育室)	第 3 回危機管理研修 防災アドバイザーによる災害学習会
3	<p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害時の対策や現状について、パワーポイント資料で職員が研修をうける 災害時の避難方法について再検証をする 適切な避難方法や経路について、アドバイザーより助言をうける

3. 事業成果

<ul style="list-style-type: none"> 災害と避難の実際を職員が知り、現状の避難体制では不十分だということに気が付いた。 緊急地震速報専用端末機及び災害用トランシーバーを新たに導入・活用することで、より迅速で確実な災害避難が可能となった。 当法人の立地条件のデメリットを知ることができた。
--

4. 周知・普及の方法

<ul style="list-style-type: none"> 12月13日の避難訓練の様子と、当法人の災害対策についての詳細及び災害時の保護者との連絡手段や園児の引き渡し方法を保護者に書面で配付し、周知した。

5. 「避難訓練」に関すること

- (ア) 「避難訓練」の種類 (地震 ・ 津波)
- (イ) 学校防災アドバイザーからの「避難訓練」に関する助言内容

<ul style="list-style-type: none"> ダンゴ虫ポーズを子どもたちに徹底する 頭部を守るの机を、各保育室に増やす 別施設から本部施設へ避難してくる際、ペビーカーが使えない場合の訓練もする 実際の発災時には、子どもたちは恐怖で動けなくなると想定しておく 施設が RC 構造で電波が入りにくかったので、トランシーバーの交信練習を重ね通じやすい場所を把握しておく 管理者等が不在の場合の役割分担について、それぞれの職員が複数の役割をこなせるように、まずは全職員が全役割を理解する必要がある 災害避難訓練記録には、歳児だけでなく、何階の何ぐみなのかも明記する 「おはしも」の標語を用いて、子どもたちが慎重に行動できるようにする 隣接する小学校と連携避難の実現を図っていく 備蓄品の不備について (数が不十分なもの、購入が必要なもの) の助言。
--

6. 「危機管理マニュアル」に関すること

<ul style="list-style-type: none"> 学校防災アドバイザーからの「危機管理マニュアル」に関する助言内容 上記避難計画見直しに伴う、文言の変更
--

7. その他の取組みに関すること

取組み内容
<p>DPASS から緊急地震速報が発報されると近隣住民にも聞こえてしまうため、DPASS の設置を町会にも知らせて理解を得ると共に、夜間の放送設定をどうするか (屋外放送を切っておくのか) について協議する。</p>

8. 本事業を踏まえた来年度の課題

<ul style="list-style-type: none"> これまで月 1 回の避難訓練を繰り返している、備蓄も十分に用意し、災害時には何とかかなった。次年度に向け、アドバイザーの指示のもと災害対策を強化すべきことが明確となった。

認定こども園 この花こども園

防災教育実践委員会 構成員	職名
	園長(防火管理者) 教頭

1. 事業の目的

<ul style="list-style-type: none"> 災害の実際を知る 非難方法を確立する 	<ul style="list-style-type: none"> 職員員の防災意識を高める 災害時の連絡手法を確立する
---	---

2. 具体的な取組み内容

日 時/場 所	会議名・取組み等
平成28年12月21日(水) 10:00~11:30 場 所 保育室、園庭	第1回防災教育研修会
【取組み内容】	
<ul style="list-style-type: none"> アドバイザーによる園内各所の安全確認及び改善ポイントの確認 危機管理マニュアルの見直し 防災組織体制の確立 教職員各自の役割分担チェック 	
日 時/場 所	会議名・取組み等
平成29年1月11日(水) 19:00~20:30 場所(遊戯室)	第2回防災教育研修会
【取組み内容】	
<ul style="list-style-type: none"> 災害時の映像をプロジェクターで放映 現実を知った上で災害時の非難方法について討議する。 適切な避難方法や経路について、アドバイザーより助言・指導をもらう。 南海トラフ巨大地震の特徴、発生確率と被想定を知る 	

3. 事業成果

<ul style="list-style-type: none"> 職員員の防災意識が高まり、園や各自の判断で子供たちの運命が変わることを実感した。 津波のことを詳しく理解し、避難には水平避難と垂直避難がある事を知る。
--

4. 周知・普及の方法

<ul style="list-style-type: none"> 園児や職員だけの避難訓練ではなく、保護者も巻き込んだ避難訓練や防災教育を行うこと。 保護者との連絡網、緊急時園児引渡しカードの作成をする。 蓄光テープを使い、停電になっても逃げ道がわかるようにしておく。

5. 「避難訓練」に関すること

(ア) 「避難訓練」の種類 (地震)

(イ) 学校防災アドバイザーからの「避難訓練」に関する助言内容

<ul style="list-style-type: none"> もう少しゆっくりと慌てずに行動するほうがいい。 各クラスの人数報告はあったが、けがが人なし、の報告が抜けていた。 非常持出し袋の中のアルミク教急シートはもっとたくさん用意しておくこと。 綿の手袋を用意しておく。 缶は日常から使い、常につけておくことよ。 モーリアンヒートパットと加熱袋はジップロックに入れて保管すること。

6. 「危機管理マニュアル」に関すること

学校防災アドバイザーからの「危機管理マニュアル」に関する助言内容

<ul style="list-style-type: none"> 初動行動の確立 <ul style="list-style-type: none"> 警報発令に対する行動基準 職員の行動基準 保護者との連携基準 <ul style="list-style-type: none"> 人員確保 安否確認

7. 本事業を踏まえた来年度の課題

<ul style="list-style-type: none"> 南海トラフ地震が30年以内に発生する確率は70%と高いことを知り、改めて家具やロッカーの固定を見直す。 アップライトピアノは固定していないので、今後固定する方向で検討する。 消火器も揺れで転倒、行方不明にならないようワンタッチの固定をする。
--

認定こども園 信太保育園

防災教育実践委員会 構成員	職 名	
	園長	副園長
	主幹保育教諭	保育教諭
	看護師	栄養士
	調理師	

1. 事業の目的

- ・全職員が、災害についての知識を高め、防災と災害時での迅速かつ適切に行動できるよう意識を高める
- ・災害時また防災訓練実施時に園児に対して適切な指導や誘導を行うため
- ・災害が発生した時を想定して事前準備・行動をシュミレーションして情報を共有する・

2. 具体的な取組み内容

	日 時/場 所	会議名・取組み等
1	平成28年12月22日(木) 9:30~11:30 場所 信太保育園	<ul style="list-style-type: none"> ・防災士の訓練視察・公表・助言 ・園内設備について
	【取組み内容】	<ul style="list-style-type: none"> ・月に一回行う、園の地震訓練の様子を見て、公表や助言をも頂く。 ・避難時の持ち物や備蓄倉庫等を見て助言やアドバイスをもらう。
	日 時/場 所	会議名・取組み等
2	平成29年1月12日(木) 13:00~14:30 場所 信太保育園	<ul style="list-style-type: none"> ・職員向け地震発生時に対応する防災研修会
	【取組み内容】	<ul style="list-style-type: none"> ・地震の発生時のメカニズムについて ・地震発生時の自園の被害リスク等について ・地震発生に対する訓練や備えについて

3. 事業成果

- ・地震のメカニズムから具体的な備えや地震が発生した時のしなければならぬことを職員に対して指導していただきました。
- ・自園の環境を踏まえ災害が起こった際のリスクについても学ぶことができました。
- ・災害に備えアドバイスを踏まえて事前に準備するものなど職員全員で話し合う。
- ・改めて災害に備え準備するものなど明確にし、備えて参りたい。

4. 周知・普及の方法

- ・このたびのアドバイスを職員全員で共有し、一方的に下すのではなく全員で話し合い周知や共有してまいる。
- ・定期的に見直しや確認を行い意識を高めて参りたい。

5. 「避難訓練」に関すること

(ア) 「避難訓練」の種類 (地震)

(イ) 学校防災アドバイザーからの「避難訓練」に関する助言内容

- ・避難訓練のための訓練実施ではなく、実際に災害が発生した場合に適切な判断と行動と行動ができるよう多くの知識を持ち訓練で実践する。

6. 「危機管理マニュアル」に関すること

学校防災アドバイザーからの「危機管理マニュアル」に関する助言内容

- ・マニュアルでの職員の動きの明確
- ・災害が起こる前の備えについて

7. その他の取組みに関すること

取組み内容

- ・備蓄品の見直しや災害時の園児受け渡し記録カードなど作成する。
- ・保育室内でリスク点などの見直しチェック体制検討。

8. 本事業を踏まえた来年度の課題

- ・防災や災害発生時に必要な備品の見直しと点検
- ・マニュアルの見直しと全職員への周知